

平成29年6月 南魚沼市議会定例会
一般質問順位表

質問順位	議席番号	質問者
1	25	若井達男
2	19	樋口和人
3	13	塩谷寿雄
4	5	塩川裕紀
5	2	中沢道夫
6	6	佐藤剛
7	10	桑原圭美
8	11	笛木晶
9	24	関常幸
10	15	小澤実
11	16	寺口友彦
12	7	田村眞一
13	8	中沢一博
14	22	牧野晶
15	9	勝又貞夫
16	18	岡村雅夫
17	4	永井拓三
18	17	中沢俊一
19	14	清塚武敏
20	3	広田公夫
計		20名

【質問方式】（いずれも質問制限時間（答弁時間を含まない。）は 30 分）

一括質問一括答弁方式： 全質問項目を一括して行い、答弁も一括して行う。
（初回は登壇して行い、質問回数は 3 回まで。）

一問一答方式： 質問及び答弁を一問ずつ行う。（ただし初回の質問は、登壇して最初の質問項目のみをまとめて行う。質問回数に制限なし）

複合型一問一答方式： 一問一答方式において、質問大項目の最初の質問はまとめて行い、以降は一問ずつ行う。

質問 順位	質問 内 容
5	1 稲作経営に対する市の対応について
議席	(1) 平成30年度に廃止される減反政策に対する市の対応について伺う。
2	(2) 米の直接支払制度の復活を国に求めていく考えはないか。
中 沢 道 夫 (複合型一問一答方式)	(3) 農地の集積と規模拡大だけでなく、多様な経営形態の農家が生き残れるような支援が必要と思うが、市長の所見を伺う。
	2 住宅リフォーム事業補助金の拡充について 南魚沼市の住宅リフォーム事業補助金を魚沼市並に拡充することは出来ないか。
	3 南魚沼市小規模修繕等希望者登録制度の活用について (1) 南魚沼市小規模修繕等希望者登録制度が、適切に機能しているとは思えない。業者に喜ばれるような制度の活用を求めるがどうか。 (2) 工事金額の上限を50万円から100万円に引き上げられないか。

質問 順位	質問 内 容
6	1 立地適正化計画による人と都市機能の誘導で、持続可能なまちづくりを
議席	
6	<p>国は都市機能の観点から人口減少問題をとらえ、2014年に都市再生特別措置法等を改正し、この人口減少、高齢化の中でコンパクトな都市を実現するために市町村で立地適正化計画を策定することを可能にした。</p>
佐 藤	<p>市は、この立地適正化計画による都市整備について、第2次総合計画、更に同時期に示された「都市計画マスタープラン」にもその方向性が示されているが、今段階では着手してはいない。</p> <p>そこで、高齢化を伴った人口減少問題、中心市街地の空洞化等の課題、また逆にうまく展開できれば、地域活性化に大きくつながる動きもある中でのまちづくりを、この「立地適正化計画」を策定しながら、将来も住みやすい持続するまちづくりに向けていく必要があると考え、以下を問う。</p>
剛	<p>(1) 地下水採取条例改正に併せて、立地適正化計画による六日町市街地のまちづくりを進める考えはないか。</p> <p>(2) 都市機能の集積で、大和地域に進めているプロジェクトとの相乗効果を。</p> <p>(3) 立地適正化計画に併せた公共交通手段の見直しを。</p>
(一問一答方式)	<p>2 人口減少、高齢化が進んだ集落、地域を維持する支援が必要</p> <p>(1) 人口減少、高齢化の進む中で「共助」による住みよい地域づくりを進める必要性はないのか。</p> <p>(2) 地域コミュニティー事業に「支えあい事業」枠を新設して、各地域で必要な独自の支えあい事業に支援する考えはないか。</p> <p>(3) 移住者、地域おこし協力隊等の定住への支援は。</p>

質問 順位	質問 内 容
7	南魚沼市民病院の黒字化と産婦人科の設置を
議席	
10	
桑 原 圭 美 (一問一答方式)	<p>平成の大合併により、複数の公立病院を持つ自治体が存在したが、それも少数になりつつある。</p> <p>当市は人口動向から見ても、現状のまま公立の医療機関を運営していくことは厳しいと言わざるをえない。</p> <p>しかし、地域医療に対する住民ニーズは高く、サービスの低下や医療の空白は避けなければならず、周到な経営計画が必要である。</p> <p>今回示された「公立病院改革プラン」に基づき、市民ニーズに応えながら健全な経営を行っていけるものになっているのかを検証する。</p> <p>(1) 公立病院は赤字経営が多いが民間の病院経営との違いをどのように認識しているのか。</p> <p>(2) このまま高齢化が進めば整形外科のニーズが高まる、という予測が成り立つが、収益を上げる態勢について、どう考えているのか。</p> <p>(3) 少子化対策や市民ニーズの観点で、産婦人科と小児科の併設が望ましい。経費は相当額見込まれるが、不採算地区病院の運営の責務として産婦人科の設置を行うべきではないか。</p> <p>(4) 経費抑制よりも人材確保を優先するという方針である。看護師等の奨学金制度を現状の学生のニーズに合う形にすべきではないか。</p> <p>(5) 市民病院の将来像として、指定管理者制度の活用は検討しているのか。</p>

質問 順位	質 問 内 容
1 1	1 環境共生について
議 席	ごみ行政のあり方に対する二市一町の統一計画策定を急ぐべきではないか。
1 6	
寺 口 友 彦	<p>2 都市基盤整備について</p> <p>農業用水と冬場の防火用水の両方が確保できるようなため池整備を考える時期ではないか。</p> <p>3 教育・文化について</p> <p>教育基本法改正と大学入試センター試験大幅変更という大改革に合わせた学区再編計画の修正を考える時期ではないか。</p> <p>4 保健・医療・福祉について</p> <p>ヤングケアラー実態調査を受けての市の対応策の現状と第7期介護保険事業計画への組み込みを伺う。</p>
(一問一答方式)	

質問 順位	質 問 内 容
1 2	1 子ども医療費助成の対象を高校卒まで拡充を
議席	(1) 実施自治体は広がっている。この動きをどう考えているか。
7	(2) 基金の一部を活用すれば実施可能と考えるが。
田 村 眞 一 (複 合 型 一 問 一 答 方 式)	2 国保は社会保障、高すぎる国保税の引き下げを
	(1) 国保は加入者の助けあいではなく社会保障という立場について
	(2) 国保加入者をとりまく経済状況はますます厳しくなっている。 国保税の引き下げで営業とくらしの応援について
	(3) 新制度導入後も国保会計への繰入は「自治体判断で」との厚生労働省答弁への市の認識、対応について
	3 地下水に頼らない対策を進め、地盤沈下の抑制を
(1) 上越市では地盤沈下が著しく進行する緊急時には揚水設置者、 道路消雪設置者へ50%削減など強力な要請を実施している。 こうした事例を参考に対策、方針を検討すべきだが。	
(2) 除排雪、屋根融雪への支援の拡充、流雪溝整備など地下水に 頼らない雪処理対策をさらに強力に進めていくべきだが。	

質問 順位	質 問 内 容
1 4	1 子育て支援について
議 席	(1) 誰もが通える休日保育園の復活を。
2 2	(2) 公約の実現。まずは入院時の医療費助成制度の拡充を。
牧	(3) 学童保育、待機児童対策は。
野	(4) 全天候型子供広場の実現を。
晶	2 C C R Cについて
(一問一答方式)	中止はできるのか。

質問 順位	質 問 内 容
16	1 南魚沼版CCRC（生涯活躍のまち）構想について
議席	
18	
岡 村 雅 夫 (一問一答方式)	<p>2014年12月議会で事業化の検討が示され、2年半が経過した。CCRCで関心の部分はハードである。浦佐地区コア事業の進捗状況は、当初計画から1年先送りになっている。アイデア募集が行われ、優秀賞2者を連携実施事業協議パートナーに選定した。パートナー企業から市に事業リスクの負担の提案がなされ、協議中というのが現状である。</p> <p>「インフラ整備を除く事業費について、市は負担をしないという考えは現在も変わっていない。」と答弁をもらっているが、「協議のうえで考えが変わるときは議会にしっかり説明をさせていただく。」との答弁もされた。変更もありうるような答弁であった。</p> <p>(1) 事業性の検証は事業化の前提条件と考えるが、協議の経過を示せ。市のリスク負担無くして事業化はできないのか。</p> <p>(2) 事業費が示されずに、リスク負担の提案では理解できない。試算に基づき提示されていたと思うが、事業費と市のリスク負担額を示せ。</p> <p>(3) 移住者のニーズで仕様の変更もあるというが、移住希望者数を伺う。</p> <p>(4) 200世帯の住宅建設事業は地元業者にとっては大きな魅力である。産業の創出、雇用の創出というが、施設建設が地元企業の仕事にならない。これに至った経過を伺う。</p> <p>(5) 移住者の住宅は分譲住宅と考えていた。賃貸住宅を想定したのはいつからか。民間事業者（アパート経営）との競合が心配である。</p> <p>(6) (一社)南魚沼市まちづくり推進機構の役割（地域再生推進法人）を伺う。</p> <p>2 学童保育の待機児童の解消について</p> <p>事前に希望者の募集をしていながら、3月30日現在91人の待機者がいると報告があった。その後の取組を問う。</p>

質問 順位	質問 内 容
18	<p>1 市内農業の「GAP」定着に市も指導力を</p>
議席	
17	
中 沢 俊 一 (複 合 型 一 問 一 答 方 式)	<p>食品としての安全性及び産地・生産者への信頼性確保の面から近年、消費者の「GAP」への感心は急速に高まっている。これに拍車をかけるのが国策としての農産品輸出の波と、2020年東京オリンピックへの期待だ。近年の「WASHOKU」への認知度は海外、インバウンド双方とも好調であるが、当市でのG-GAPへの取組は極めて限定的であり、東京五輪での食材採用の最低基準といわれるJ-GAPもほとんど関心と呼んでいない。近年中の合併を目指す市内2農協の中核戦略とすべきJ-GAPへの取組に、市も機を逸することなく指導力を持ちつつ最大限の支援策を打つべきであろう。</p>
	<p>2 MMDOの戦略的立ち位置を明確に</p> <p>南魚沼市の産業新基軸を創るべくMMDOが発足した。若者、高齢者の移住から新産業への取組まで、広汎な分野を網羅し事業者(所)を配した点は評価に値するが、官民の立ち位置がいま一つ見えてこない。海外人材、海外事業所まで視野に入れつつ、市の競争力を高めていかねばならぬ時代に自前のプランを競争力ある戦略・戦術にまで高める算段があるのか、以下3点につき質したい。</p> <p>(1) 当面3か年の事業展開</p> <p>(2) 全ての企画が「事業」としての競争力を備えるための助言者・機関</p> <p>(3) 自発的な市内シンクタンクができた場合の住み分けと連携</p>

質問 順位	質問 内 容
19	<p>1 辻又地区の冬季道路閉鎖解消と支援策について</p>
議席	
14	
清 塚 武 敏	<p>市内でも冬期間、雪崩の発生・危険により通行止めになり、魚沼市を經由しなければならない集落「辻又」がある。平成16年から平成27年まで当初予定事業は完了したが、この冬も雪崩発生により3か月間の通行止めとなった。限界集落と言ってもいい過疎の集落であり、2名の地域おこし協力隊の配属や行政支援の配慮等もあるが、まだ課題もあり支援が必要だ、今後の施策について伺う。</p> <p>(1) 小千谷大和線防災安全事業（雪崩対策）の今後整備計画と、県、市、地域との連絡体制は万全か。</p> <p>(2) 大和病院診療科目がある土曜日の市民バスも運行できないか。</p> <p>(3) 冬季道路閉鎖期間だけでも、高齢者宅等の私道について、市道除雪の中で市が認めた部分の除雪を可能にできないか。</p> <p>(4) 任期も後1年となった。今後の地域おこし協力隊について市の考え方は。</p>
（一問一答方式）	<p>2 子育て支援充実について喫緊の課題は</p> <p>時代の変化により、子育てと仕事の両立の難しさが出てきている。今では低年齢保育、学童保育は当たり前の時代であり、それに伴い、子どもを持つ世帯の家計の負担は、相当多額なものになって、少子化の原因の一つでもある。南魚沼市独自の軽減の拡充も示されているが、他市からの移住者に不満の声もある。子育て支援拡充について、喫緊の課題にどう取り組んで行くか伺う。</p> <p>(1) 保育料について、近隣市と比較してどう捉えているか。</p> <p>(2) 学童保育の受け入れ態勢は万全か。</p>

